

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	兵庫県	市町村名	宝塚市	大学名	
派遣日	令和 4年 2月 18日(金曜日) 14:00~16:30				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣 / <input type="checkbox"/> 遠隔				
派遣場所	宝塚市立くらんど人権文化センター 会議室2 (〒665-0072 兵庫県宝塚市中野町 22-13 / Tel:0797-73-2222)				
アドバイザー氏名	村松 好子 (兵庫県立東はりま特別支援学校校長)				
相談者	加藤 謙太 (宝塚市教育委員会事務局学校教育課人権教育担当 指導主事・係長) 登日綱 勢津子 (宝塚市教育委員会事務局学校教育課人権教育担当)				
相談内容	①通訳及び日本語指導サポーターの派遣回数十分ではないことで、学校生活への適応や日本語の習得、そして学習内容の定着が困難となっている。 ②学習言語や学習内容の定着が困難な児童生徒が多数いること ③学校組織として、日本語指導を体系的・継続的に行えていない				
派遣者からの指導助言内容	①外国籍児童生徒の全国的な現状について ・都道府県によって外国籍の児童生徒の母語に特色がある。それぞれの文化背景が異なるため、指導の仕方も必然的に変わってくる。 ②散在地域の特徴。散在地域や少数在籍校における教育現場の困り感について ③在籍学級を土台に、母語支援と日本語指導の両輪で支援の充実を図り、最終的に在籍学級で学べることを目標として取り組むこと。現在行っている母語指導も必要だが、学校の体制として計画的に日本語指導にシフトしていくことも必要。 ④国語と日本語指導の違いについての正しい認識について ・国語は、日本語が母語、日本の文化・風土・生活習慣が土台にある子どもを前提として学ぶ日本語。日本語指導は、学校で必要な日本語、そして学校生活や学校文化について学ぶ。 ・日本語指導は、ただ日本語をただ単に“読み”“書き”を学ぶだけではなく、“使えるようになる”ことが、結果的に学校生活への適応につながる。 ⑤具体的な日本語指導のプログラム a) サバイバル日本語⇒来日してすぐ b) 日本語基礎⇒学校生活に慣れてきたら文字や単語を学ぶ c) 日本語と教科の統合学習⇒JSL カリキュラム ⑥時期に合わせた指導と役割分担 ・兵庫県は多文化共生教育を基盤にしており母語支援事業があるため、母語支援者の派遣回数が多い。来日から半年以内に、計画的な対応(サバイバル日本語の支援と授業の通訳の併用)を考える必要がある。 ⑦来日当初の日本語指導の体系的系統的な指導について ・集中型初期日本語指導の事例(1か所に集まって日本語指導を受けるシステム) ・放課後の日本語指導教室 ・外部委託 ⑧指導者不足や派遣回数確保の対応例				

	<ul style="list-style-type: none"><li>・拠点校方式</li><li>・コーディネーターによる指導と支援員等の派遣</li><li>・学校における対応の流れ 児童生徒の受け入れ（保護者からの聞き取り）⇒取り出しによる日本語指導（日本語能力に応じた特別指導、「特別の教育課程」の編成）⇒入り込み指導による支援⇒担任・教科担当等授業者による配慮</li></ul> <p>⑨兵庫県の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子ども多文化共生サポーター（来日から1年間の母語支援）</li><li>・日本語指導研究推進校</li><li>・日本語指導支援推進校事業</li></ul> <p>⑩宝塚市の課題への対応についての課題</p> <p>a)宝塚市の外国人児童生徒等教育の方向 どのように必要性を訴えるか、どのような児童生徒を育てていきたいか 受け入れから社会参加へ向けたカリキュラムの整理</p> <p>b)児童生徒への日本語指導ができる指導者の養成 日本語指導加配教員等の配置と役割</p> <p>⑪学校における帰国・外国人児童生徒等の受け入れ （参考）「外国人児童生徒等のための受入れハンドブック ～指導・支援を充実させるために～」（兵庫県教育委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・児童生徒の指導の空白の時間を作らない</li></ul> <p>⑫「特別の教育課程」による日本語指導例</p> <p>○A市の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・先導的実践研究加配校（国指定）</li><li>・日本語指導支援推進校（県補助事業）</li></ul> <p>○実践1「DLAによる日本語能力の見とり」⇒日本語能力の把握</p> <ol style="list-style-type: none"><li>2「サバイバル日本語」</li><li>3「日本語基礎」（文字・発音・語彙・文型）</li><li>4「教科志向型 JSL カリキュラム」⇒日本語の力の段階を評価</li><li>5「読書記録」</li><li>6「国語化におけるリトライ教材の作成」</li><li>7「日本語をおぼえよう大作戦」</li></ol>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>①宝塚市日本語の不自由な幼児児童生徒サポーター派遣（母語指導と日本語指導サポーターの派遣）のDLA等を用いた派遣基準についての整理</p> <p>②日本語指導の派遣の充実</p> <p>③日本語の不自由な幼児児童生徒サポーター派遣の派遣校やサポーターによる研修会の実施（今後計画予定）</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。